

クロックアップ・サイリックス第4回公演上演台本

縦横無尽

作・演出／川原 武浩

やはり、雨。

ポツン、ポツンと規則的な音を立てながら空き缶に落ちる雨垂れ。あたりは一面、締め切られた障子。

その向こうから微かに声がする。

会話か、それとも独り言か。

【お】 海に名前をつけるよに、空に名前をつけたなら、あなたは還ってくるのでしょうか。果て無き空とその海の、狭間が確かに見えたなら、あなたは戻ってくるのでしょうか。その空の光を背に受け立ち尽くし、やがて振り返り、その空の彼方に駆け抜けたあなたの後姿。まぶしさに細めた目で精一杯見送りました。

誰そ彼時と、彼は誰時の、空に違いがあるのなら、教えて下さい。この太陽は、昇り来るのか、沈み行くのか。やがて来るか、去っていくのか。

音楽。

障子が一斉に開き、人々が飛び出してくる。

【あ】# うるせえんだよ、ブツブツブツブツ！！
 【い】# うるせえんだよ、ブツブツブツブツ！！
 【う】# うるせえんだよ、ブツブツブツブツ！！
 【え】# うるせえんだよ、ブツブツブツブツ！！
 【あ】# あのねえ、あんまり、あしぎまに。
 【い】# いいたかないけど、いつも、いつも。
 【う】# うざったくて、五月蠅くて、疎ましいの。
 【え】# ええかげんにせえよ、えひめ丸と一緒に沈めるぞコラ。

と、そこは雨漏りを受けるための空き缶が一つ。
 人の姿はどこにも見えない。

【あ】# あれ？
 【い】# いない、ですね。
 【う】# 嘘。ブツブツじゃなくてポツポツ？
 【え】# え？ なんだ、雨漏りかよ。

障子の向こうからやはりブツブツと声がする。

【あ】# (障子の向こうを指さして) あ。
 【い】# いや、やっぱり。

【う】 うん、間違いない

【え】 (耳を澄まして) ええと、こっちだ。

【あ】 うるせえんだよ、ブツブツブツブツ!!!

【い】 うるせえんだよ、ブツブツブツブツ!!!

【う】 うるせえんだよ、ブツブツブツブツ!!!

【え】 うるせえんだよ、ブツブツブツブツ!!!

奔流のように、その声の方へと押し寄せる人並み。

開け放たれた障子のその先に、一人の女。

【お】 うるせえんだよ、ギヤアギヤアギヤアギヤア。

その勢いに思わず飛びのく【あいうえ】

音楽。

【お】 あんたの方がよっぽど五月蠅いんだよ。

【あ】 わかってんでしょ、壁薄いんだからさ。右も、

【い】 左も

【う】 床もね。

【え】 天井も薄いんだよ。

【お】 どこ住んでんだ、あんた。

【あ】 とにかくね。あなた、五月蠅いから。

【い】 そういうことだからさ、ひとつね。

【う】 せめて足音だけでもね。

【え】 なんとかしてほしいってことなんだけども。

【お】 ・・・お互い様でしょ、そんなの。

【あゝえ】 なんだと、この野郎!!!

【あゝえ】、罵詈雑言を【お】に叩き付ける。

【お】、しばらく圧倒されていたが、ブチ切れるように猛然と反撃。
やがてそれは口喧嘩から大乱闘へ。

しかしその大乱闘も唐突に終わる。

【あゝお】 なんて言えたらどんなにいいだろう。そんな気持ちで飲み込んだまま、

【あ】 今日隣人はかわらず夜中に謎の雄たけびを上げ、

【い】 薄いベニヤの壁はそのたびに軋み

【う】 バタバタと落ち着かない足音は天井を通して響き渡り

【え】 屋根裏の私にすら届くのです。

【お】 海に名前をつけるよに、空に名前をつけたなら、あなたは還ってくるので
しょうか。果て無き空とその海の、狭間が確かに見えたなら、あなたは戻っ

てくるのでしょうか。その空の光を背に受け立ち尽くし、やがて振り返り、その空の彼方に駆け抜けたあなたの後姿。まぶしさに細めた目で精一杯見送りました。

誰そ彼時と、彼は誰時の、空に違いがあるのなら、教えて下さい。この太陽は、昇り来るのか、沈み行くのか。やがて来るか、去っていくのか。

逆光に照らされた【あ】く【え】、沈みゆく夕日のように、静かに障子の影に沈んでいく。

雨だれを見つめる【お】。

やや大きく、雨だれの音が響き渡る。

その音に連れられるように、雨が降り始める。

【お】・・・また、雨か。

しかし、その言葉とは裏腹に、障子を照らす明かりは燃えるように紅い。

(シーン0終了)

障子の影から、帽子の男が現れる。
帽子を目深にかぶり俯きがちに。
その下の表情を伺い知ることはできない。

【あ】 雨・・・ですか？

【お】、その声に驚き振り向く。

【あ】 降ってますか？ 雨。

【お】、無言で雨だれを指さす。

【あ】 ああ、雨漏り。なるほど。それでね。
【お】 何の用ですか。

【あ】、ボロボロのクロスワードパズルを取り出す。

【あ】 これなんです。

それを目にした【お】、はじかれるように立ち上がる。

【あ】 何回です？

【お】 はい？

【あ】 何回やりました？

【お】 やったって・・・そのクロスワード、ですか？

【お】の

【あ】 そうです。何回やりました、これ。

【お】 ・・・・もう何度も。

【あ】 何度も、ね。

【お】 いや、一度も。

【あ】 どっちです。

【お】 どちらでも。あるようなないような。

【あ】 曖昧ですね。それじゃ困るんです。

【お】 もう何度もやろうとしたけれど、結局一度もやり遂げた事がない。意志が強いのか弱いのか。繰り返し返すたびに同じ所に引っかかり、立ち止まり、立ちつくす。そんな堂々巡りです。何度もやったようで、一度もやってない。ど

つちなんでしょようか。やったことになるんでしょようか、それともやつぱりや
つてないんでしょようか。・・・なんなんでしょようか、これ。どうなんでしょ
うか、これ。

【あ】 さて、ねえ。

【お】 知りませんか。「か」ではじまって「な」で終わる、四文字の言葉。
【あ】 なんです、やぶからぼうに。

【お】 縦の二十八。解けないパズルの最後の一片です。「か」ではじまって「な」で
終わる、4文字の。

【あ】 「か」ではじまって、「な」で終わる。うーん。あ、ああ、あるある。
【お】 なんです!?

【あ】 「かつお菜」

【お】 それじゃあ横が合いません。

【あ】 じゃあ「カタカナ」

【お】 それでもダメなんです。

【あ】 「神棚」なんてのは。

【お】 それも。

【あ】 「鍵穴」

【お】 同じく。

【あ】 カナナ。

【お】 それは三文字。

【あ】 カナ。

【お】 減らさない。

【あ】 神取忍は田村亮子より強いかな。

【お】 ふざけないでくれますか。

【あ】 もう思いつかないですよ。か、か、か・・・。

【お】 縦の二十八。空の名前。たったそれだけのヒントです。「か」ではじまって「な」
で終わる。そんな空の名前です。なんですか、この言葉。「か」ではじまって「な」
で終わる。

【あ】 空、ねえ。・・・あ。

【お】 何か？

【あ】 空と言えば、あの空は良かった。「か」ではじまって「な」で終わる。あの空
は・・・。

【お】 あの空は!!!

【あ】 川棚・・・川棚温泉グランドホテルお多福。名物の露天風呂で一杯やりながら
見上げた夜空。いや、素晴らしかった。テレビの懸賞で宿泊券が当たりましてね。
温泉も良かったが空も良かった。瓦蕎麦も美味かった。

【お】 ・・・ふざけんな、この野郎!!!

【お】、【あ】に掴みかかろうとしたその瞬間、障子が一斉に開き、人々が
飛び出してくる。

【あ】 #だからうるせえつつつてんだろ！！
【いゝえ】 #だからうるせえつつつてんだろ！！
【い】 あのね、繰り返し返しになって悪いんですけど。
【う】 共同住宅なんだからさ。
【え】 安普請なんだからね。
【あ】 ひとつ静かにしてもらえませんか。
【あゝえ】 なんてビシつと言えたらカッコいいだろうなあ。
【あ】 なんて思いながらも。
【い】 でもこれがなかなか。
【う】 言えそうで言えない。
【え】 ここまでは出てるんだけどね。
【あゝえ】 ふー。
【あ】 集合。

【あ】 く【え】、【お】をほっぽりだし、部屋の隅に集結。
【お】、力無く座り込み、埋まらないパズルをみつめたまま。
【お】、やがて消え入るようにすつと障子の陰に。
障子には【お】の影が写り込んでいる。

【あ】 こんなところでなんですがはじめまして。6号室の朝田です。
【い】 お名前は表札でかねがね。どうも4号室の飯田です。
【う】 お名前は郵便受けでかねがね。2号室の上田と申します。
【え】 お名前はなんとなくかねがね。屋根裏の江古田です。どうぞよろしく。

四人、深々と頭を下げた挨拶。

【あ】 で、この部屋のあの人。
【い】 5号室の。
【う】 あの人。
【え】 名前なんてえんだ。
【あ】 誰か知りませんか？
【い】 表札には名前がない。
【う】 郵便受けにも名前がない。
【え】 風の噂にも聞かないね。
【あ】 それでは仮に5号室の五代さんとでもしておきましょう。
【い】 それじゃあ私は四谷さん。
【う】 それじゃあ私は二階堂くん
【え】 すると私は風車の弥七。
【あ】 あー、なにがなんだかわかりません。出直します。一旦解散。

一同、解散。

【あ】 はい、集合。雄弁は銀、沈黙はきんさんきんさん名古屋だミヤーのお時間です。本日は青森県は恐山からイタコの吉田トメさん88歳にお越しいただきました。今日は同じ名字のよしみで、故・吉田茂さんと呼んでいただき、往年の名台詞で一喝していただきたいと思えます。

【う】 それでは始めます。(イタコ)なんじゃーかんじゃーふんじゃーかんじゃー、はああああ、すぽーん。・・・メガネメガネ、メガネメガネ。

【あ】 それはなんか違う人が降りて来てませんか。

【う】 吉田でございます。

【あ】 えー、吉田首相。ワンマン宰相と呼ばれたあなたですが、今のこの腐りきった世相になにか一言。

【う】 バ。

【あ】 バ？

【う】 バス発車します。お立ちのお客様はお近くのつり革手すりにおつかまりください。

【あいえ】 がつたーん。

【う】 ううううううう・・・帰りました。ワンマンバスの運転手、吉田茂さん。享年78歳。

【あ】 いや、それは吉田さん違い。総理大臣だった吉田さん。

【う】 あ、ああ、はいはい。ううううう、すぽーん。吉田でございます。

【あ】 それでは一言どうぞ。

【う】 ば。

【あ】 ば？

【う】 ばくの髪いがく肩まで伸びてく、君と同じになつたらしく。

【あ】 えー、そういう若い人にわからないボケをしないようにお願いします。

【う】 ううううう。

【あ】 ごまかさない。

【う】 帰りました。

【あ】 帰らせない。

【う】 ううううう。

【あ】 ごまかさない。

【う】 はああああ、すぽーん。吉田でございます。

【い】 あー、首相は国際情勢を極めて樂觀しているようですが、どのような根拠にもとづいてのことなのでしょう？

【う】 アメリカのアイゼンハワー大統領もイギリスのチャーチル首相も同様の見解を持っています。

【い】 私は欧米の政治家の意見を聞いているのではない。日本国首相として答弁され

たい。

【う】 私は日本国総理大臣として答弁したのである。

【い】 首相は興奮せずに答弁されたい。

【う】 無礼なことを言うな。

【い】 何が無礼だ。

【う】 無礼じゃないか。

【い】 質問しているのに何が無礼だ。日本の総理大臣として答弁できないのか。

【う】 バカヤロー!!!

一同、なぜか万歳三唱。拍手。

【あ】 はい、解散。

一同、解散。

【あ】 はい、総選挙。

【あ】 ～ 【え】、選挙運動。

【あ】 当選く。

【い】 当選く。

【う】 当選く。

【え】 落選く。・・・畜生あいつとこいつとそいつさえいなければ。不正工作、買

収、暗殺。繰り上げ当選く。

【あ】 はい、集合。それでは作戦を立てます。

【いうえ】 うす。

【あ】 今日のこの日まで、思えば我々も随分と我慢に我慢を重ねてきました。昼夜となく響きわたる絶叫、足音、いびき、歯ぎしり、寝っ屁。我々だけが共同生活のルールを守り、極力人様に迷惑をかけないように、夜のテレビはヘッドホン。歩くときには忍び足。ドアを閉めるときは必ずノブをひねりながら。水をくむならコップに伝わせ、いびき歯ぎしり聞こえぬように寝るときは布団を頭からかぶり、よもや寝っ屁などかぬようにケツには栓をして、自分の部屋なのにまるで他人の部屋のように遠慮がちに過ごしている私たちです。

同意していない表情。

【あ】 私たちです。

同意していない表情。

【あ】私た・・・何か？

【い】いや、さすがに栓までは。

【う】ねえ。

【え】うーん。

【あ】見ますか、栓。

【い】いや、結構です。

【あ】そうですか。残念だ。

しかし、今日こそね、共同生活の秩序っていうか、ルールっていうか、そういうものをね、教えてあげなければいけないと思うんです。世界は一家、人類は皆兄弟。一休さんの間のCMでA級戦犯のおじいちゃんが言っていました。水は命のお母さんくすいすいすいすい水曜日。一日一善く。やっぱりね、きつちりと教えてあげるべきじゃないでしょうか。我々のためじゃなく、なによりも五代さん（仮名）の為に・・・そこで、効果的に、かつ角が立たない、なにかいい方法があればご提案ください。はい、飯田さん。

【い】裁判に訴える。

【あ】思いつきり角がたってます。じゃあ、江古田さん。

【え】暴力に訴える。

【あ】角たちまくりです。

【え】で、殴り合った後友情の握手。

【あ】ありえませんが。はい、上田さん。

【う】直接、ダイレクトかつストレートに言ってやればいいんです。

【あいえ】おおう。

【う】今日という今日はね、言ってやりますよ、ガチンと。

【あ】ガチン？

【う】ええ、もうガチンと。

【あいえ】ガチン？

【う】何か？

【あ】ガツンじゃないんですか？

【う】ガチンと。

【い】それはどういう風に言うんですか。

【う】こうです。

【う】、猛然と【お】の所へ向かう。

【う】ちよつとアナタねえ！！

【お】・・・

【う】、携帯電話を取り出しメール送信。

【お】の携帯に着信が入る。

【お】、携帯を一瞥するが、またポケットにしまい込んでしまう。

【あ】 ぜんぜんこたえてないじゃないですか。
【い】 なんて送ったんです、いったい。

【え】、【う】の携帯をのぞき込んで・・・

【え】 「周りの迷惑も考えてください(笑)」

【い】 なんですか(笑) って。

【う】 いや、あんまり角が立たないようにと思って。

【あ】 それ以前に、だいたいなんでメールなんですか。

【う】 いや、あんまり角が立たないようにと思って。

【い】 それ以前に、なんでアドレス知ってるんですか。

【う】 ちよっとインターネットで。

【あ】 インターネットで？

と、【あ】部屋の方から電話のベルが鳴っている。

【あ】 あ、電話だ。ちよっと失礼。

【あ】、自室に戻って電話にでる。

【あ】 もしもし？

【う】 ごめんなさい、上田です。

【あ】 (びっくりした) わあっ！！

【う】 ちよっとインターネットで非合法的に調べました。ごめんなさい。

【あ】 あなたもちよっと変だ。

室内にブブブブという音が響く。

【あ】、戻ってくる。

【あ】 なんですか、この音。

一同、なんとなくまわりを見回したりしてみる。

【い】 あ、バイブにした。

【い】、携帯を取り出す。

【い】 # 「おまえの秘密を知っている。b y 2号室・上田」

【う】 # 「おまえの秘密を知っている。b y 2号室・上田」

【う】 ごめんなさい。でも秘密にしますから。

【い】 秘密って・・・どの秘密？。あの秘密？。この秘密？。どの秘密？

【う】 それは秘密です。「私は司会の桂小金治です。」「アシスタントの清水由貴子で

す。」

【い】 気になる〜。

【い】、悶絶して床を転がる。

【え】 ばさつばさつばさつ、クルッポー。はっ、おまえは新沼謙治さんから貰ったレース鳩777（アラシ）。クルッポー。なんだ、その足についている紙は。見せて見ろ。クルッポー。#「お元気ですか？ by井上陽水 t。昭和天皇、もとい2号室・上田」

【う】 # 「お元気ですか？ by井上陽水 t。昭和天皇、もとい2号室・上田」

【う】 ごめんなさい。本当にごめんなさい。

【あいえ】 何者だ、あんた。

【う】 すいません。あの、でも、趣味の範囲として楽しむだけで、決してみなさんにはご迷惑おかけしませんから。

【あ】 そんな技があるんだったら、もっと効果的にガチンと行けるんじゃないですか。

【い】 そうですよ、ガチンと行ってやるんじゃないんですか。

【う】 まあ、ガチンといってもわたしのガチンなんてこの程度で。・・・ここ（喉のあたりをさして）まではでてるんですけどね。

【あゝえ】 ふー。

けだるい、やるせない感じの間。

【あ】 集合！

【いうえ】 うす！

【あ】 作戦をたてます。

【あ】、【え】、再度部屋の隅に集結。

【あ】 残念ながら、我々の紳士的な忠告は完膚無きまでに無視されました。この上は、若干レベルを上げたより具体的な干渉を行うより仕方ありません。その方法についてご提案ください。はい、飯田さん。

【い】 水道を止める。

【あ】 水道を？

【い】 ええ、裏の元栓を閉めてしまってますね、水がでないようにするんです。水も飲めなきや煮炊きもできない。便所の水すら流せない。なんてたって水は命のお母さん。スイスイスイ水曜日。一日一善〜。水分は人間の70%。生活の

基本ですから。こまりますよ、これは。そこで「水を出してほしければ交渉のテーブルにつけ」とABC包囲網ならぬ朝田飯田上田江古田のあいうえ包囲網で迫るわけです。

【あ】 弱そうな包囲網ですな。

【う】 まず語感が弱いよね。

【え】 それってライオンを虫かごで飼うようなもんじゃないか？

【う】 あんまり追いつめすぎると窮鼠猫を咬むってことにも。

【あ】 ネズミならいいですが、手負いの獅子って感じですからね。

【え】 ライオンに咬まれるのは松島トモ子とムツゴロウさんだけで充分だ。

【あゝえ】 うーん。

【あ】 他には？ はい、江古田さん。

【え】 息の根を止める。

【あ】 やりすぎです。

【え】 で、ベホマを唱えて完全復活。

【あ】 えー、ドラクエのやりすぎです。

【え】 じゃあ電気を止める。

【あ】 はあ。

【え】 そして暗闇でテロリストが混乱しているところに催涙弾を一発。窓ガラスを割って一斉に突入です。

【あ】 映画の見過ぎです。

【う】 あの、私がやりましょうか。

【あ】 せっかくですが、ガチンはもう結構です。

【う】 いえ、こんどはガツンと。

【あいえ】 (期待で) おー。

【う】 言ってみようかなと思うような思わないような。

【あいえ】 (失望で) おー。

【う】 ここまでは出てるんですけどね。

【あゝえ】 ふー。

【い】 はい。

【あ】 はい、飯田さん。

【い】 まず、代表者を決めて、その人に直接交渉してもらうっていうのはどうでしょうか。

【あうえ】 おー。

【い】 いきなり大勢で押し掛けても、感じ悪いだけだと思うんですよ。だからまずは当たりの柔らかい人がやんわりとかつバシツと言って、それでもダメなら徐々に厳しく、NHKの集金とか、新聞の勧誘とか、その辺のやり方をお手本にしてですね。

【あ】 素晴らしい。

【う】 行けそうね。

【え】 やっちまえ。

【あ】 じゃあ、そういうことで。

【あうえ】 代表、よろしく。

【い】 え？

【あ】 【う】 【え】、風のように障子の陰へと去っていく。
一人残される【い】。

【い】 え、代表。僕が。マジで。ちょっと、朝田さん。上田さん？ 江古田さん？

返事なし。

【い】 しょうがないなあ。(不安になった) ええっと、なにか身を守るものは、と。
お、こんなところにヘルメットが。(かぶる) 防御力3つてとこだな。やっぱり
ヘルメットだけじゃ不安だな。攻撃は最大の防御って言うしな。・・・このセリ
フ、なんか前にも言ったような気がするな。気のせいかな。なんか不吉な予感がす
るな。(まだ不安) ええっと何か武器はと。お、こんなところに鉄パイプが。装
備。(鉄パイプを持つ) 攻撃力8、扱い易さ3つてとこか。これでいいか。む、
こんなところにお面が。顔を覚えられると後々面倒だな。よし、顔は隠しとこう。

【い】、すっかり過激派チツクになる。

【い】 あ、あく。えへん。あの、こんばんわ。隣の飯田ですけど。
【ん】 はい？

と、障子の陰から立ち上がったのは見慣れない女。

【ん】 お姉ちゃんなら出かけてますけど。
【い】 えーと。お、お姉ちゃん？
【ん】 どちらさまですか？
【い】 え、あ、隣の飯田です。怪しいもんじゃないです。
【ん】 思いつきり怪しいんですけど。
【い】 あ、す、すいません。

【い】、あわてて装備を解除。

【ん】 なんのご用ですか？
【い】 用っていうか、なんていうか、その、ちょっとお話が。
【ん】 私にですか。
【い】 あなたに、っていうかなんていうか、あなたを含むこの部屋全体に。
【ん】 どういう意味かわからないんですけど。

【い】 えーっと、ていうか、多分あなたのお姉さんに、
【ん】 多分ってどういうことですか？

【い】 いえ、あなたのお姉さんに用事があるんです、確実に。

【ん】 お姉ちゃんなら出かけてますけど。

【い】 あ、ああ、はい、そうみたい、ですネ。

【ん】 いつ帰ってくるかわかりませんが。

【い】 あ、ああ、そうですか。

【ん】 で、何のご用ですか。なんだったら伝言しときましようか。

【い】 あ、いえ、そんな伝言とかそんな大層な用事じゃ。なんて言えばいいのかな。
要するに、えー、あー、すこしね、共同生活のね、なんだ、ほら、ルール？ そ
う、ルールについてね、若干もの申すところがあるわけなんですよ。えー、要す
るに、サッカー的にいえばちよつとオフサイド気味ではないかと。えーまー、な
んというか（小声で）ちよつと出過ぎてませんか、みたい。短歌というなら
お隣の音がうるさいヒイラギ荘、字余り。ではないかと。要するになんというか
（小声）ちよつと出過ぎてませんか、みたい。

【い】、思いもしない状況に緊張しているのか、話が思いつきり脱線。

【ん】 すみませんが、出ていってくれませんか。知らない人を部屋に上げるなって、
お姉ちゃんから言われてるんです。

【い】 あ、ああ、すみません、勝手にあがりこんじゃって。

【ん】 それから。

【い】 はい。

【ん】 私は住んでないことになってるのであんまり話しかけないでください。

【い】 え？

【ん】 この部屋、一人しか住んじやいけないでしょ。お姉ちゃんに無理言って、居候
させてもらってるんです。だから、私はここにいないことになってるから。
あんまり話しかけないでください。

【ん】、スタスタと障子の影へ。

その様子を遠巻きに眺めていた【あ】 【う】 【え】、ソロソロと戻って
くる。

【あ】 どうでした。

【う】 やんわりと言ってやりました？

【え】 やんわりかつビシッと。

【い】 え、ええ、はい、まあ。

【あ】 で、どうでした。

【い】 どうでしたって？

【あ】 だから、どうでしたか。向こうのリアクションは。

【い】 いや、リアクションもどうもこうも。いませんでした。

【う】 いなかった？

【い】 はい。

【う】 だって、ドア開いてたでしょ。

【い】 はい。

【え】 さっきまで居たよな。

【い】 ええ。

【あ】 でも今行ったらいなかった。

【い】 はい。

【う】 出てきた気配もなかったですよね。

【え】 窓から逃げたわけでもないだろ。

【あ】 ということは、中に居た人は外に出していない。それはつまり・・・

【あ】 # 居留守じゃありませんか？

【う】 # 居留守じゃないの？

【え】 # 居留守じゃねえか？

【あ】 ああ、なんということでしょう。我々の誠心誠意の最後通牒を、よもや居留守で無視するのは。我々は新聞の勧誘でも、NHKの集金でもないというのに、どうなんですかこの扱いは。

【う】 まるでポツダム宣言を無視された連合国のような心持ちです。

【え】 ちくしょう。リトルボーイをエノラゲイに積み。やってやんぞ、こら。

【い】 いや、でも居たんですよ。

【あ】 # じゃあ居るんじゃないですか。

【う】 # じゃあ居るんじゃないの。

【え】 # じゃあ居るんじゃないか。

【い】 いや、だから落ち着いて聞いてくださいよ。居るには居たんですけど、別の人が居るんです。

【あ】 別の人？

【い】 妹だと言ってました。

【う】 妹？

【い】 いや、妹だとは言っていないのか。「お姉ちゃんならでかけてますけど」って。

【え】 じゃあ弟かよ。

【い】 見た目女の子だったと思うんですけど。

【え】 じゃあ妹だろ。

【う】 変装とかじゃないの。

【い】 いえ、明らかに別人でした。

【あ】 顔は似てました？

【い】 似てるといえは似ているような。そうでないといえはそんな気も。

【あ】 曖昧ですね。それじゃ困るんです。

【い】 とにかく、部屋に入ったら、五代さん(仮名)を「お姉ちゃん」と呼ぶ女の子が居て、「お姉ちゃんなら出かけてますけど」って僕に言ったんですよ。

【え】 出かけてますって、出かけてないだろ。やっぱり居留守じゃねえか。
【う】 しかも二人住んでただなんて。

【え】 またルール違反かよ。

【あ】 違反はイカンですな。違反はイカン。韻を踏んでますな。大変遺憾であります。余談ですが、大阪には警察が作った「チカン、アカン」というシエークスピアぱりに韻を踏みまくったチカン撲滅のキャンペーンポスターが町中に貼ってあります。「チカン、アカン」大阪にはそんなにチカンが多いのでしょうか。そうかと思えば「シャブ打たずにホームラン打とう」覚醒剤撲滅キャンペーンのポスターまでこんな調子です。トゥービー、オア、ノットトゥービー。韻を踏むのがこの世のルールとするならば、一言言わせて貰いましょう。「ゆるさん、お姉さん」(復唱)「ゆるさん、お姉さん」・・・突撃いく!!!

【あくえ】 (関の声) やあーっっ!!

音楽。

一同、障子を背に背負いどこかへ突撃していく。

障子の去った後には、毛布にくるまったまま半身を起こしている【お】の姿がある。

【お】 うっさいなあ。なにやってんだ、隣。(あくび) ふあくあ。

「突撃〜」「せいやああ」などと声が聞こえてくる。

【お】 突撃って、部屋のなかで何やってんだよ。あー、もう。うるさい。・・・寝られやしない。(毛布をかぶる)

「わっしょい」「わっしょい」などと声が聞こえてくる。

【お】 御輿でもかついでんのか。

と、障子の裏からさらに声が聞こえる。

【あ】 (声) 「ぼんちかわいやねんねしな品川女郎衆は十奴〜」

【い】 (声) 「おいさー、やいやいやいやい、おいさー」

【う】 (声) 「ゆーしゃんしゃん、ゆーしゃんしゃん、ゆー」

【え】 (声) 「まーつりだ祭りだ祭りだ祭りだ〜」

【お】 どんたく山笠十日戎北島三郎、なんの祭りだよ。ひよっとしてお祭り騒ぎってことか。・・・うるせえんだ、血祭りにすんぞ、コラア!!!

声、びたりとやむ。

【お】 ったく。

【お】、毛布をかぶり、ゴロンと横になる。

【あ】 (声) 突撃〜!!

【あゝえ】 (声) せいやああつっ!!

音楽。

障子が一斉に動き出し、【お】を飲み込む。

障子、くると一斉に裏返し、姿をあらわす【あ】〜【え】。

【あ】 突撃〜!!

【あゝえ】 せいやああつっ!!

威勢だけはいいが、誰一人突撃しない。

【あ】 突撃〜!!

【あゝえ】 どうりやああつっ!!

威勢だけはいいが、誰一人突撃しない。

一同、まわりを見回して・・・

【あ】 突撃〜!!

【あゝえ】 あちよーつつっ!!

【あ】 だから、突撃〜!

【いゝえ】 お先にどうぞー!!

【い】 どうぞ、遠慮せずに。

【う】 いえいえ、そちらこそ。

【え】 (【あ】に) やっぱりここは総大将から。

【あ】 いやいや、先鋒はお任せします。

【い】 いやいや。

【う】 いやいや

【え】 いやいやいや。

【あ】 いやです。

【い】 僕だっていやですよ。

【う】 私だっていやよ。

【え】 いうまでもないけどいやだ。

4人、押しあいながら、自分以外に先陣を切らせようとする。

【あ】　ここはひとつレディーファーストで。
【う】　そういう意味じゃないでしょ、それ。
【い】　男女同権ってことでひとつお願いします。
【う】　いやなものはいや。
【え】　いやいやよも好きのうち。
【う】　それも意味が違うし。
【え】　ええい、グズグズ言うんじゃない。そりゃあ。

【あ】【い】【え】、結託して【う】を最前線に押し出す。

【う】　わわわわわ。

【う】、グルグル回される。

【い】　作戦名、砂漠の嵐。

【え】　食らえトマホークミサイル！！

【あ】　発射ー！！

【あいえ】　せいやー！！

【う】、発射される。

と、障子が開け放たれ【お】が姿をあらわす。

【お】　だからうるせえつつつてんだよ。食らえ、報復攻撃。スカッドミサイル！！

【お】、【う】を捕まえて投げ返す。

命中。

【あゝえ】　どっかーん！！

【あ】ゝ【え】、ものすごい絡まり方。

【お】、姿を消す。

【あ】　ええい、ひるむな、突撃く！！

【い】【う】【え】、動けない。

【あ】　む、我が軍は壊滅的状况。もはや艦と運命を共にするまでか。アムロ、いきま
す。

【あ】、関の声を上げながら一人突撃。

障子が、【あ】の前方に回り込み、壁のように立ちふさがる。

【あ】 どうりやあつつつ!!

雨音。

しかし、障子を開け放ったそこには誰の姿もない。

【あ】 ……あれ？

その背後に【い】【う】【え】【お】の姿。

【いくお】 だからうるせえつつってんだろ!!

【あ】 え？

音楽。

風雲急を告げるかのように急速に暗転。

(シーン1終了)

もう一度、暗闇の中から声がする。

【あくえ】だからうるせえつつつてんだろ！！

明転。

【お】のいたはずの場所には【ん】が立っている。

【ん】（突然のことに驚いたかのように）す、すみません。
 【あ】この子ですか。さっきあなたが言っていたのは。
 【い】あ、はい。そうです、はい。
 【ん】お姉ちゃんならでかけてますけど。
 【え】隠しだてするためになんねえぞ。
 【う】ネタはあがってんのよネタは。
 【い】嘘つくと偽証罪に問いますよ。

【ん】、あつという間に【あ】く【え】に囲まれる。

【ん】どちらさまですか？
 【あ】どちらさまもこちらさまも。はじめまして。6号室の朝田です。
 【い】2度目です。4号室の飯田です。
 【う】2号室の上田。
 【え】屋根裏の江古田。
 【あくえ】四人そろってゴレンジャー。
 【あ】私、アカレンジャー。
 【い】僕、アオレンジャー。
 【う】私、モモレンジャー。
 【え】俺、ミドレンジャー。
 【あくえ】したがっておまえはキレンジャーだ。
 【あ】カレー食え。
 【い】方言でしゃべれ。
 【う】太れ。
 【え】黄色くなれ。
 【あ】黄色くなるために、その一。
 【い】メガネをかける。
 【あ】黄色くなるために、その二。
 【う】カメラを首からぶら下げる。
 【あ】黄色くなるために、その三。
 【え】出っ歯になれ。

【あ】黄色くなるために、その四。
【い】ビールをつまみに焼酎を飲み。
【う】ワインをつまみに泡盛を飲み。
【え】飲んで飲んで肝臓を壊せ。
【あ】黄色くなるために、その五。
【い】みかんを食え。
【う】みかんを食え。
【え】たまにはオレンジも食え。
【あゝえ】どうだ、黄色くなったか。

【え】、一服してタバコに火をつけようとする。

【ん】あの、すいません。ここ、禁煙です。
【え】人種差別か？
【ん】はい？

【え】いいか、昔キン肉マンという漫画がこの世にあった。その中にジェロニモという、インディアン・・・もといネイティブアメリカンの超人が出てきた。こいつは斧を持っている。反則じゃねえかと子供心に思ったが、それはまあいい。ことあるごとに「ウララ〜」と叫ぶ。必殺技はトマホークチョップとアパッチキックだ。手塚治虫先生の描く未開人・・・もとい、近代科学に侵されず伝統的生活をなさってる土人・・・もとい、黒んぼ、もとい、ニグロ、もとい、肌の黒い原住民、もとい、先住民族の方々が、鼻の下に人骨ぶら下げて上半身裸で石槍を持っていたが故に、TVでの再放送が許されないように、カルピスの人も、チビクロサンボも、ジャングルくろべえも、黒いと見ただけでも見れないのか。だったら黒沢年男もクロードチアリも全部放送禁止にしろ。畜生、俺は再放送が見たいんだ！！

【ん】すいません、なにがいたいんだか全然分かりません。
【え】禁煙だと？ それはつまり狼煙禁止ってことか。貴様ネイティブアメリカンの心を愚弄する気か。くらえ、酋長の怒り。トマホークチョップ、トマホークチョップ、アパッチキックウ！！
【ん】(身をかわして)あの、なんのご用ですか？
【あ】ご用ですかですって？ もちろんご用です。
【い】御用だ。
【う】御用だ。
【え】御用だ。

【あ】〜【え】、捕り方のように【ん】を囲む。

【あ】引っ立てえい！！

【あゝえ】うらあああつつつ！！

【あくえ】、一斉に【ん】に飛びかかる。
その人波をすり抜ける【ん】。

【ん】 ちよ、ちよつと何するんですか。

【あ】 引っ立てえい！！

【あくえ】 うらあああつつっ！！

【あくえ】、再度【ん】に飛びかかる。
その人波をなんとかすり抜ける【ん】。

【ん】 (精一杯の反撃) 出てってください！！

【あくえ】 まー！！

【あ】 でででで出ていってくださいとはどどどどどどういうことですか。

【い】 いいいいいい言うにことかいて、でででで出てってくださいなんて。

【う】 ゆゆゆゆゆ許さないわよ。そそそそそさういうの。

【え】 ぼぼぼくはおおおおにぎりがだだだだだだいすきなんだなこれが。裸の大將
じゃあ、こらあ！！

【あくえ】 もう一度、一斉に【ん】に飛びかかる。

あえなく捕縛される【ん】。

【ん】 ちよつと、やめてくだ・・・

【ん】、猿轡を咬まされる。

【ん】 んんー。んんんんんー。

【あ】 只今より、極東欠席裁判を開廷いたします。掃除当番も、学級委員も、飼育係
も、黒板消しも全部お前だー。給食係はカレーの日だけ俺だー。

【い】 スパゲティの日は僕だー。

【う】 ソフトめんの日は私。

【え】 酢豚の日は俺だー。

【あ】 続いて、今年度の五代さんのあだ名を決定したいと思います。なんか全体的に
微生物っぽいので、ミジンコがいいと思います。はい、他に意見のある人。

【い】 はい。ベン毛が生えてるので、ミドリムシがいいと思います。

【う】 はい。セン毛が生えてるのでゾウリムシがいいと思います。

【え】 はい。細くて長いので、サナダ虫がいいと思います。

【あ】 決定します。今日から五代さんのあだ名はミジンコ発ミドリムシ・ゾウリムシ
經由サナダ虫行きです。長いので略して観察池。

【ん】 (不服) んー。

【あ】 さて、本日のメインイベント。ここ5号室の騒音問題について。意見のある方は挙手をお願いいたします。

【あゝえ】 はい。

【あ】 はい、私。えー、隣の6号室の朝田と申します。朝昼晩の朝に田圃の田。朝田でございます。特に気になっておりますのは、明け方と夕暮れ時の意味不明の叫び声でございます。やめていただきたい。驚いて手がびくうっとなつて、趣味のドミノ倒しとトランプタワーがバタバタバタ一気に崩れ去ってしまうので、とにかく静かにしていただきたい。それだけでございます。

【い】 えー。隣の4号室の飯田と申します。飯風呂寝るの飯に田畑の田。飯田です。えー、内容的には6号室の朝田さんとほぼ同じなんですが、かててくわえて壁になにかをぶつけるのはやめていただきたいと思えます。そのたびに壁際においてある棚から食器が飛び出します。心霊現象みたいで気持ち悪いので、とにかくやめていただきたい。それだけです。

【う】 えー、下の2号室の上田と申します。下に住んでますけど上田です。上中下の上に田村正和の田で上田です。足音です。とにかく意味もなく部屋の中をウロウロするのはやめてください。えー、それから時々ステップを混ぜるのはやめてください。まだ普通にウロウロされた方がましです。ステップ踏まないでください。ツーステップもボックスもスキップも禁止です。とても気になります。ステップとスキップ、やめていただきたいと思えます。

【え】 えー、屋根裏の江古田です。江沢民の江に、古代進の古。田山花袋の田で江古田です。えー、突然「曲者」といつて天井を槍で突き刺す遊びはやめて貰いたい。ことによると命が危ないので、とにかくやめていただきたい。それから予告なしにバルサンを焚くのもやめていただきたい。ことによると命が危ないので、とにかくやめていただきたい。お願いします。

【ん】 ー。

【あ】 被告人。なにか反論は？

【ん】 ー。

【あ】 それでは判決を申し渡します。被告人を桃栗三年柿八年梅はすいすい十六年に処す。閉廷！

【お】 (声) いいたいことはそれだけか？

【お】、帰還。

【ん】 ーんーんん(おねーちゃん)。

【あ】 でたな妖怪。

【お】 鬼の洗濯岩とはまさにこのこと。

【一同】 ？

【お】 やりなおし。

【お】 鬼の居ぬ間に洗濯とはまさにこのこと。

間。

【あ】 ……この宮崎県の回し者があー!!

【い】 おとなしくジャイアンツでもキャンプさせてろ。

【う】 パイナップルでも売ってる。

【え】 シーガイアでも潰してる。

【お】 (挑発的なポーズ) あーはー?

【あ】 かちーん。怒髪天を突くとはまさにこの事。皇国の興廃はこの一戦にあり。各員一層奮励努力せよ。全艦突撃く!!

【あゝえ】 どうりやああっつ!!

音楽。

【あゝえ】、突撃。

その第一撃をさらりとかわす【お】。

【お】、【ん】の猿轡を外し、【あゝえ】と対峙する。

緊張の一瞬。

【お】 さあ、かかってくるなさい。私はいつなごとき、誰の挑戦でも受ける。

【あ】 む。

【い】 むむ。

【う】 むむむ。

【え】 むむむむ。

【お】、フェイント。

【あゝえ】、ビクリとする。

【お】 時が、熱狂と偏見を和らげた暁には、また理性が虚偽からその仮面を剥ぎ取った暁には、その時こそ、正義の女神はその秤を平衡に保ちながら、過去の賞罰の多くにその所を変える事を要求するであろう。

【あゝえ】、怯む。

【お】 人は歩みを止めたときに、そして挑戦をあきらめたときに年老いていくのだと思います。この道を行けばどうなるものか。危ぶむなかれ。危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、一足が道となる。迷わず行けよ。行けば分かるさ。ありがとう!

【あ】 でかい。

【い】 でかい。

【う】 がかすぎる。

【え】 なんだこのでかすぎるオーラは。

【お】 1、

【あゝえ】、更に怯む。

【お】 2、

【あゝえ】、恐慌状態。

【お】 3、

【あ】# 総員、撤退くっつ!!

【お】# ダーッ!!

【いうえ】 おーたーすーけー。

【あゝえ】、一斉に逐電。

静かな間。

【お】 大丈夫だった？

【ん】 (うなづく)

【お】 (部屋を見渡して) あーあ、好きなだけ踏み荒らしてくれちゃって。どうすんだ、これ。

【ん】 ごめんなさい。

【お】 あ、そういう意味じゃないから。

【ん】 ごめんなさい。

【お】 だからあやまらなくていいって。

【ん】 ごめんなさい、お留守番もろくに出来なくて。

【お】 だからいいって。

【ん】 ごめんなさい。

【お】 だからあやまるなって

【ん】 ごめんなさい。

【お】 あやまるなっていつてるだろうが。ぶっ殺すぞ、コラア!!

【ん】 ごめ・・・ス。

【お】 それ、意味わかんない。

【ん】 ごめんなさい。・・・「お」ではじまって「ん」で終わるのに、全然ダメだね。

【お】 何が？

【ん】 おねえちゃんと、お留守番。やっぱり私じゃおねえちゃんの代わりはできないみたい。

【お】 そんなことないって。こういうのはね、場数と気合い。要するに慣れだよ、慣れ。

【ん】 新聞屋さんとかNHKとか、断れないし。

【お】 教えたる？ # 「お姉ちゃんは留守なので、よく分かりません」

【ん】 # 「お姉ちゃんは留守なので、よく分かりません」

【お】 あとは、絶対にはんこを押したり、サインしたりしなければ、お姉ちゃんがなるとかしとくからさ。

【ん】 (うなずく) ああ、これ。

【ん】、おずおずと洗剤を差し出す。

【ん】 お昼に、新聞の人が来て。

【お】 新聞って。

【ん】 ヨミウリ。

【お】 ナベツネんところか。ちゃんと行ってやったか？ 「お前んところの野球選手養うために、なんでウチが新聞とらなあかんのじゃー」って。「男は黙って日本ハムじゃ。ニチハムなんじゃ。とって欲しかったら新聞の名前、ヨミウリ新聞からニチハム新聞に変えてから出直してこい。週刊ヨミウリは週刊ニチハム。球団名はニチハムジャイアンツ。全戦日テレで試合終了まで生中継だ。ズームイン朝で、毎日イレコミ情報を流せ。それから、あのウサギのジャビットとかいうやつはシチューにしてマルチネスに食わせる。文句があるならオバンドーに言え」って。

【ん】 (首を横に振る)

【お】 書いといたでしょ、想定問答集に。

【ん】 うん。

【お】 どうして。

【ん】 覚え切れなくて。

【お】 いいんだよ、内容なんてどうでも。なんて言えばいいのかなあ、スピードっていうか、畳みかける勢いっていうか、そういうウヤムヤかつ滅茶苦茶なテンションがね、大事なわけよ。

【ん】 私、おねえちゃんみたいに口うまくないし。

【お】 まあ、ねえ。

【ん】 あと、なんか全体的にオーラがたりない気がする。

【お】 だからそういうのは慣れなんだって。すぐに慣れるよ。

【ん】 うん。

【お】 で、はんこはおしてないだろうね。

【ん】 うん。

【お】 サインもしてないだろうね。

【ん】 うん。

【お】 じゃあなんで洗剤がここにあるわけ？

【ん】 くれるって。

【お】 新聞屋が？

【ん】 うん。

【お】ありえん。

【ん】どうぞお使い下さいって。

【お】絶対にあるえん。

【ん】それから。

【お】まだなんかあるの。

【ん】もう一箱くれた。

【お】ますますありえん。

【ん】野球のチケットもくれたよ。

【お】巨人戦か。

【ん】日ハム・ロッテ戦。

【お】なんだそのやる気のないチョイスは。

【ん】あとね。

【お】まだあるのか。いったい何ヶ月契約させられたんだ。もう一回聞くけど、サインもしてないし、はんこも押してないんだよね。

【ん】うん。

【お】こう、なんか変な紙渡されなかった？

【ん】ううん。あとは小麦粉くれた。

【お】なんだその不条理さは。

【お】契約なんていいですから、どうぞどうぞって。私、なんて言っていないかわからなくて、そのまま貰っちゃって。

確かに、新聞の勧誘がタダでモノをくれるなんてのは想定外だから書いてないけど。なんなんだ、そりゃ。セールスマンがモノを売らないってのは。セールスするからセールスマン。勧誘するから勧誘員だろ。新聞とらないのにモノくれるってのは、あり得ないだろ。慈善事業じゃないんだから。

【ん】うん。変だと思う。

【お】怪しいな。そいつ、これまでに見たことがある顔だったか？

【ん】顔は・・・帽子被ってたし、よく見えなかったけど。

【お】部屋なかで帽子ねえ。

【ん】うん。被りっぱなしだったよ。

【お】声を聞いたことは？

【ん】うーん。あるようなないような。

【お】曖昧だな。

【ん】でも、なんか聞いたことあるような気がする。

音楽。

いつの間にか障子には無数の穴が開けられている。

【あ】壁に耳ありクロードチアリ。歩く姿は百合のよう。・・・その声はこんな声じゃありませんでしたか、お嬢さん。

障子が裏返し、【あ】が姿を現す。

【お】 こいつ？

【ん】 うん。

【お】 曖昧じゃない？

【ん】 間違いない。

【あ】 ある時は片目の運転手。ある時は帽子の勧誘員。ある時はせむし男、もといノートルダムの鐘。またある時は6号室の朝田。しかるにその実体は！？（帽子を放り投げる）愛と真実の人、多羅尾伴内だ！

【お】 でたな荒唐無稽。

【あ】 エログロナンセンス、結構じゃありませんか。ほめ言葉として受け取っておきましょう。

【お】 この昭和の遺物が。

【あ】 オーホワット？ ショーワ？ ミーン、ヒロヒト？ アイヤーワタシニホンゴキャントスピークスムニダ。

【お】、さらに障子を半回転させ、【あ】を追い出す。

【お】 なんなんだ、あいつ。

【あ】 壁に耳ありモハメドアリ。蝶のように舞い、蜂のように指す。

【あ】、再登場。

【お】 （猪木化）なんだコノヤロー。アリキック、アリキック、アリキック。

【あ】 痛い痛いアウチ。ガッデム。サノバビッチ。シーユーアゲイン。バイバイ。

【あ】、逃げ出す。

【あ】 壁に耳あり障子にアリス。（歌う）ユーアーローリンサンダー、アー。む、む、むむむむ。（障子が回らない）アイムノットローリングサンダー。むむむむむ。

【あ】、四分の一ぐらいの隙間から顔を出し・・・

【お】 また言葉遊びか。

【ん】 それも昭和の遺物でしょ。

【あ】、【お】と【ん】押し合う。

【あ】 遊んでません。戦いです。ローリングストーンズです。ミックジャガーです。猛獣のように猛烈です。べろーん。

【お】なめてんのか。

【あ】それがトレードマークですから。

【お】ロートルはすっこんでろ。

【あ】年はとつてもまだロック。ターゲットネットクでロケンロールです。

【お】なにがロケンロールだ。ロールパンでも食って寝てる。馬鹿。

【あ】ロールパンでも食って？ パンでも食って。パン食って。パン食う。オーケー、

ライフイズパンク。ラヴアンドピース！！ ノーフューチャー！！ 明日のことなんて知るか。プッシュプッシュでござつあんでーす。(押す)

【お】と【ん】、押さえていた手を離す。

【あ】わあ。

【あ】、勢い余って半回転。

【お】なんか押さえるもの。

【ん】うん。

【ん】、そのあたりのものをかき集めてくる。

音楽。

【お】と【ん】が押さえている障子以外がゆっくりと回り、【あ】と【え】が姿を現す。

【あ】壁に耳あり障子にメアリ・・・ポーピンズ。雨でもないのに傘さして、風に乗

って#空でも飛ぶつもりですか、五代さん。

【い】# 空でも飛ぶつもりですか、五代さん。

【う】# 空でも飛ぶつもりですか、五代さん。

【え】# 空でも飛ぶつもりですか、五代さん。

静かな間。

【あ】と【え】ビニール傘を開く。

【あ】降ってますか？ 雨。

【お】と【ん】、無言で虚空を指す。

雨だれが一滴、天井からしたり落ちる。

【あ】ああ、なるほど。それでね。

【あ】、静かに【お】と【ん】の所へ詰め寄る。

【あ】 どうです。分かりましたか？ 縦の十三。空の名前。「か」で始まって「な」で終わる。

【おとん】、【あ】の勢いに押されるように障子の影に消える。

(シーン2終了)

傘をさしたままの【い】、【う】、【え】。

お互い視線はあわせぬまま、どこかすれちがった会話。

【い】 確かに見たんですよ。窓の向こうに。西日に照らされたあの窓の。

【う】 はい。

【え】 そうですか。

【い】 それに聞いたんです。壁越しに。

【う】 はい。

【え】 そうですか。

【い】 絶対になにかおかしいですよ、五号室。ほら、あるでしょう。夜中にバタバタ足音が聞こえるとか。叫び声がするとか。

【う】 ……うちは別に。いつも静かですよ、上の方。

【え】 うちも別に。何か聞こえてきたなんてこともないし。

【う】 ましてやなにか見たなんてこと。

【え】 ええ、ないですよ、本当。

【い】 そんなありえないですよ。うちだけ隣の音がうるさいなんて。すごいんですよ、壁際においてある棚から食器が飛び出したりとかね。

【う】 はあ。

【え】 そうですか。

【い】 聞こえるでしょ、上と下に住んでるんだったら。

【え】 上？

【い】 住んでるんですよ、上。

【え】 上って、僕、七号室ですけど。

【い】 だから、屋根裏でしょ。七号室。

【え】 屋根裏って、ハイジとか小公女セーラとかが住んでるあれでしょ。屋根裏あるんですか、このアパート。

【い】 屋根裏は・・・ないの？

【え】 僕、2階の突き当たりですけど。

【い】 江古田さん？

【え】 古田です。僕。

【い】 え、だって郵便受けに江古田って。

【え】 あ、やっぱりそう見えちゃいました？ ちゃんと消したつもりだったんですけど。

【い】 消したって？

【え】 前に住んでた人が江口さんって人だったらいいんですけど。郵便受け、マジックで直に名前書いてあったんですよ。で、見たら江と口の間に開いてたんで。そこに「古」って書き足して、口を田にしたんです。あとでシンナーで江のところ、消そうとしたんですけど、うまく消えなくて、薄く残ったままになってるんです。

よね。いつそ上からシール張ろうかなとも思っただけで、錆びてるせいかながれちゃうんですよ。・・・やっぱりちゃんと消しとかなきゃ駄目か。

ああ、そ、そうなんですか、古田さんね。

あの、そろそろいいでしょうか。出かける用事があるので。

本当に聞こえませんか？

ええ。

見たんですよ、僕。

そうですか。

見えるでしょう、その窓の向こう。

【い】
【う】
【い】
【う】
【え】
【い】

【う】と【え】、携帯電話のメールを打ち、【い】を避けるように目を合わせない。

【う】　　そういうのは大家さんに言った方がいいんじゃないですか？（汗）送信。

【え】　　直接言うと、角が立ちますもんね。ポリポリ。送信。

【い】　　なんで聞こえないんだよ！！

【う】　　そうおっしゃられても。（汗汗）送信。

【え】　　ええ。ねえ。（苦笑）送信。

【い】　　見たんですよ！！

【う】　　ええ。送信。

【い】　　聞いたんですよ！！

【え】　　そうですね。送信。

【い】　　見えるでしょう、その小さな窓の向こう！！

【う】　　いやあ。（大汗）送信。

【え】　　うーん（泣）送信。

【う】と【え】、去る。

一人残される【い】。

【い】　　だから見たんですよ！！

音楽。

【あ】【う】【え】登場。

【あ】　　見た見た見た見ましたよ。私も確かに見ましたよ。

【う】　　私も。

【え】　　俺も。

【あ】　　一人部屋なのに二人っ！

【う】　　したがって騒音も二倍！

【え】　　うるせえはずだよ、あれじゃ。

【い】 (勢いづいて) そうでしょう？

【あ】 許せませんな、いくらなんでも。

【う】 許しちゃいけないわよね、個人レベルで。

【え】 いや、もうこのアパート全体として許せん。

【あ】 いや、もうここまでくれば町の迷惑です。

【う】 区の恥。

【え】 市の汚物。

【あ】 県の面汚し

【う】 州のゴマ汚し。

【え】 国辱だ。

【あ】 シュプレヒコール！ 5号室の住人は、周りに迷惑をかけるなー！

【い】 かけるなー！

【あ】 かけるなー！

【い】 かけるなー！

【あ】 かけるなー！

【い】 かけるなー！

【い】 シュプレヒコール！ 5号室の住人は、壁に物を投げるなー！

【あ】 投げるなー！

【い】 投げるなー！

【あ】 投げるなー！

【い】 投げるなー！

【あ】 投げるなー！

【う】 シュプレヒコール！ 5号室の住人は、スキップを踏むなー！

【あ】 踏むなー！

【う】 踏むなー！

【あ】 踏むなー！

【う】 踏むなー！

【あ】 踏むなー！

【え】 シュプレヒコール！ 5号室の住人はバルサンの、もとい化学兵器の使用をや

めろー。

【あ】 やめろー！

【え】 やめろー！

【あ】 やめろー！

【え】 やめろー！

【あ】 やめろー！

【え】 やめろー！

【あ】 モーニングコール！ おかあちゃん、明日は7時に起こしてー！

【い】 起こしてー！

【あ】 起こしてー！

【い】 起こしてー！

【あ】 起こしてー！
【いゝえ】 起こしてー
【あ】 バイトがあるんよ。
【い】 ナースコール！ 看護婦さん、座薬入れてください。
【あうえ】 入れてくださいー！
【い】 入れてくださいー！
【あうえ】 入れてくださいー！
【い】 入れてくださいー！
【あうえ】 入れてくださいー！
【い】 ありがとうございますー！
【う】 アルコール！ （ロレツが回らない）うい、もういっぱいもつれこい。
【あいえ】 もつれこーい。
【う】 もつれこい。
【あいえ】 もつれこーい。
【う】 もつれおええええええ。
【え】 ホリーコール！ （歌）アーーーーーイアムコーーーーーーリンユー……！！
【あうう】 ゆー！
【え】 ゆー！
【あうう】 ゆー！
【え】 ゆー！
【あうう】 ゆー！
【あ】 ラブコール！ 好きや、好きや、好きなんやー！
【いゝえ】 好きなんやー！
【い】 カエルコール！ 今駅、すぐ帰る。
【あうえ】 帰るー！
【う】 カエルコール2！ （吐く）ゲロゲロゲロゲロ。
【あいえ】 オエー。
【あ】 三菱車リコール。すみませんでしたー。
【いゝえ】 すみませんでしたー。
【あ】 回収しまーす。
【いゝえ】 回収しまーす。
【あ】 交換しまーす。
【いゝえ】 交換しまーす。
【い】 愛のスコール。緑の缶々。
【あうえ】 緑の缶々
【い】 アンバサと同じ味ー！
【あうえ】 同じ味ー！
【い】 カルピスソーダと一緒にー！
【あうえ】 一緒にー！
【う】 ワコール、キメブラマシユマロタイプ。どげな名前じゃー。

【あいえ】 名前じゃー。
【う】 AでもC。
【あいえ】 だまされたー。
【う】 CならF。
【あいえ】 使用禁止ー。
【え】 (携帯電話を取り出して) ワンコールブチ切り。誰じゃこらー。
【あうう】 誰じゃこらー。
【え】 誰がかけるかー。
【あうう】 誰がかけるかー。
【え】 おまえからかけてこいー。
【あうう】 かけてこいー。

と、【い】の携帯電話が鳴る。

【い】 もしもし。え？ (電話を掲げて) コレクトコール！
【う】 難しく言うと通話料着信者払い
【あ】 いわゆる着払い。
【え】 凶々しいんじや、誰じゃこらあ！

【お】、あらわれる。

【お】、【い】の正面に立って・・・

【お】 もしもし。

【い】、慌てて目をそらす。

【い】 もしもし。
【お】 もしもし。

【い】、いたたまれず、部屋の隅へ逃げる。

しかし【お】は【い】にぴったりとついて回る。

【い】 もしもし！！
【お】 もしもし。
【い】 もしもし！！
【お】 分かりましたか？ 縦の二十八。空の名前。「か」で始まって「な」で終わる。
【い】・・・空の、名前。
【お】 分かりましたか？ 空の名前。
【い】 「か」で始まって「な」で終わる・・・。
【お】 その空の名前は？

【い】　ここまでか。

【あ】　その空は。

【う】　名前は。

【え】　その空の。

【お】　空の名前。

【い】　もう限界ですか、僕の想像の翼。もう限界ですか、もう飛べませんか、太陽まではまだなのに、これが僕の限界ですか。

翼をなくした鳥たちは、墜ちていくしかないのでしょうか。翼をなくした鳥たちを、果たして鳥と呼ぶのでしょうか。たとえ羽が抜け落ち、骨が砕けても、羽ばたけ、僕の想像。羽ばたけ、僕の空想。羽ばたけ、僕だけの真相！！

音楽。

【い】、空を飛ばうとするかのように手を振り回す。

しかし、それは何かに向けて羽ばたくのではなく、ただ墜ちるまいと
もがいているようにしか見えない。

と、障子の陰からクロスワードを手に【ん】があらわれる。

【ん】　ねえ、これは？　横の一。年の初めのご挨拶。7文字。

【い】　(羽ばたきながら) キンガシンネン。

【ん】　キンガシンネン、と。

【ん】、障子に答えを「キンガシンネン」と書き付ける。

【ん】　じゃあ、横の十四。猫大喜び。4文字。

【い】　カルカン。猫まつしぐら。

【ん】　縦があわないから、違うみたい。

【い】　じゃあ、モンプチ。

【ん】　それも違うみたい。

【い】　じゃあ、先に縦から。

【ん】　じゃあねえ、縦の十七。お祝いの魚。二文字で。

【い】　タイ。

【ん】　で、横の十四。猫大喜び。2文字目が「た」で4文字。

【い】　マタタビ。

【ん】　あ、なるほど。

【い】　次は？

【ん】　縦の十。「ね」で始まって、2文字。

【い】　ヒントは？

【ん】　反転してます。

【い】　ネガ。

【ん】　ふーん。

【い】、息切れ。
その羽ばたきが遅くなり始める。

【ん】 じゃあ、縦の一。ありがたいもの。「き」ではじまって4文字。
【い】 キリスト。
【あ】 キオスク。
【ん】 なんで？
【い】 信じてるひとには、そうでしょ。
【あ】 なんでも売っててありがたい。
【ん】 ふーん。

【ん】、障子に「キオスク」と書く。
【い】の羽ばたき、ますます遅くなる。

【ん】 じゃあ、横の二。「す」で始まって5文字。おひなさまが得意なこと。
【い】 すまし顔。
【う】 スガシカオ。
【あ】 すまし汁。
【ん】 なんで？
【い】 そういう歌があるんだよ。
【う】 そういう歌手がいるんだよ。
【あ】 うまいんだ、これが。
【ん】 へー。

【ん】、障子に「スマシジル」と書く。

【ん】 縦の四。一文字目が「が」三文字目が「し」で五文字の言葉。で、ヒントは学
校と言えは？
【い】 が・・・合唱。
【う】 学習。
【え】 外資系。
【あ】 学食。
【ん】 おー。

【ん】、障子に「ガクシヨク」と書く。

【ん】 横の5。「く」ではじまる2文字。白かったり黒かったり、色とりどりだった
り。
【い】 熊？
【う】 蔵？

【え】 久米。
【あ】 クモ。空の雲は白かったり黒かったり。虫のクモは色とりどり。
【ん】 あったまいー。

【ん】、障子に「クモ」と書く。

【い】の羽ばたき、ほとんど止まる。

【ん】# じゃあねえ、縦の十九。「た」ではじまる5文字。ヒントは二倍二倍。
【お】# じゃあねえ、縦の十九。「た」ではじまる5文字。ヒントは二倍二倍。
【い】 高見山。
【う】 隆三杉。
【え】 田子の浦。
【あ】 玉子井。
【お】 玉子井、と。
【い】 違うよ。高見山。二倍二倍でしょ。高見山。

しかし、その声はまったく届いていない。

【お】 次は、横の十二。3文字で、神様の名前。
【い】 イエス。
【あ】 シヤカ。
【お】 それって仏様なんじゃないの？
【あ】 同じようなもんだろ。
【お】 縦の十五。孤独なもの。
【い】 スター。
【あ】 カカシ。
【お】 うまい。
【お】 横の十六。4文字の大阪名物。か・・・
【あ】 桂三枝。
【お】 いらっしやーい。・・・まじめにやる。
【あ】 桂小枝。
【お】 まじめにやる。
【あ】 桂米朝。
【お】 まじめに。
【あ】 カツ井。
【お】 なんて。
【あ】 そういう店があるんだよ。たぶん。
【お】 ほんとに？
【あ】 絶対ある。こないだなんかで読んだ。
【お】 じゃあ、カツ井ね。

【い】 たこ焼きでしょ。だから前が違ってたよ。二倍二倍は高見山。神様の名前がイエス。で、孤独なのはスター。大阪名物はタコヤキ。こっちの方が自然じゃないか！

そんな声にもかまわず、二人は黙々とパズルを解き続ける。
おそらくは【い】の言うとおりに、間違ってたまま。

【お】 横の二十。〇〇〇い。

【あ】 なんだ、それ。

【お】 なんでもいいからつながればいいんじゃないかな？ はじめが「こ」だから「い」
〇〇い。

【あ】 うーん、ゴダイゴ。

【お】 五年後。・・・どっち？

【あ】 縦の二十一は？

【お】 えーと、入るもの、だって。

【あ】 ゴダイゴ。ダン。

【お】 ゴネンゴ。ネン。

【あ】 ダンを入れる。ウルトラセブンの中に諸星ダンを入れる。

【お】 念を入れる。

【あ】 そっちだ。

【お】 こっちだ。

【お】 というわけで「ゴネン」に決定。

【い】 だから間違ってるんだよ。ここはタコヤキなんだから。ここはみなしご。ここは「泣き」。泣きが入る。言うでしょ。

【い】、最後の力を振り絞って、もう一度羽ばたく。

【お】 # 縦の二十二。にここ。

【ん】 # 縦の二十二。魚市場のこと。

【あ】 \$ ぶん。

【い】 \$ かし。

【お】 # 横の二十二。昔のドイツ。

【ん】 # 横の二十二。のような足。

【あ】 \$ プロシア。

【い】 \$ カモシカ。

【お】 # 縦の二十五。すくうもの。

【ん】 # 縦の二十五。すくうもの。

【あ】 \$ ベロ。

【い】 \$ たも。

【お】# 縦の二十六。救世主。

【ん】# 縦の二十六。救世主。

【あ】\$ アシカ。

【い】\$ メシア。

【お】# 横の二十三。冬のもの。

【ん】# 横の二十三。冬のもの。

【あ】\$ しもやけ。

【い】\$ カツオ菜。

【お】# 縦の二十八、空の名前。

【ん】# 縦の二十八、空の名前。

【お】 「あ」ではじまって、「け」で終わる。

【ん】 「か」ではじまって、「な」で終わる。

【あ】 あ、あ、あ、（思いついた）朝や・・・

【い】、その言葉を遮るように死ぬほど羽ばたき叫ぶ。

【い】 わーっつっつっつっつっつっつ！！！！

【い】、部屋の壁にブチあたり、転がり回る。

【い】、次々に障子を閉じ、【あ】【う】【え】【お】【ん】の姿を消し去ろうとする。

一度閉めたはずの障子がまた開き、なかなか全てを消しきれない。

【い】 わーっつっつっつっつっつ！！！！ 誰か止めてください、僕の空想。誰か止めてください、僕の妄想。もう、そうするしかない。昔の人はいいました。でも、もう、そうすることすらできない、そんな時代です。誰か止めてください僕の暴走。わかっているんです。この妄想の行き着く果ては。わかっちゃいるけどやめられない。スー・スー・ダラ・ラッタ・スラスラ・スイスイ・スイー。わかっているのにやめられないんです。だから、誰か止めてください暴走する僕の妄想！！！！ わかっているけど、もう戻れない。完成するはずのないこのパズル。繰り返しても繰り返しても、完成するはずのないこのパズルです。来るな。消えろ。出てくるな。やめろ、消えろ、出てくるな。心の奥にぼっかりと、開いた穴ならとつくの昔、確かに塞いだはずなのに、どうして漏れ出てくるのでしょうか。忘れ去りたいと思うほどに忘れられない。そう意識することですます忘れられない。そんな堂々巡りです。

また障子が開き、次々に住人が姿をあらわす。

【う】 あの、すみませんけど。

【え】 あの、すみませんが。

【あ】 あの、住友生命。
【お】 あの、炭火焼き
【ん】 あの、隅田川

【う】 あの、だからですね。
【え】 あの、えーとですね。
【お】 アーノルドシュワルツネツガー。やかん体操。
【ん】 アーノルド坊や。現在31歳。冗談顔だけにしろ。
【あ】 エマニエル坊や。ベイビーあの子とダンシントウナーイ、シテイコネクショ

【い】、必死に障子を閉めて回る。
また障子が開き、次々に住人が姿をあらわす。

【う】 (物腰やわらかに) あの、すみませんけど、静かにしてもらえませんか。
・・・昨日、夜遅かったもんで。
パソコンですか。
え？
【い】 ピーガーツて、なんですか、モデムっていうんですか、音が聞こえるから。
【う】 それは・・・失礼しました。
【い】 ハッカーなんでしょ？
【う】 ・・・メールぐらいしか使ってませんが。

【い】、失望の表情で障子を閉める。
障子が閉まると同時に別の障子が開き、【え】が姿をあらわす。

【え】 (物腰やわらかに) あの、すみませんけど、静かにしてもらえないでしょうか。
・・・明日、朝早いもんで。
【い】 鳩のトレーニングですか。
【え】 なんの・・・なんですか？
【い】 鳩のトレーニングですよ、レース鳩の。
【え】 なんですか、それ。
【い】 またまた。ちゃんと知ってますから、僕。飼ってるんですよ、鳩。聞こえますよ、くるっぽーって。
【え】 あの、ひよっとうちの鳩時計のことですか。ごめんなさい。半分壊れちゃって、音がやたら大きいんです。

【い】、失望の表情で障子を閉める。

【い】
・・・もう、なんでもいい。今でない何かならなんでもいい。迷走したってかまわない。逃げまどえ、僕の想像。現実という名の引力から逃れ、どこまでも遠く羽ばたけ。もう戻れなくてもかまわない。もう戻れなくてもかまわない。土砂降りの雨の中を下を向き突き進むように、突撃いっつつっ！！

【い】、狂ったように羽ばたき、疾走する。
デタラメな妄想が舞台を支配する。

【ん】 ジョ（伏せ字）ナム。ジョ（伏せ字）ナム。お父様がお呼びよ。
【お】 なんですか、その（伏せ字）ってのは。
【ん】 しーっ。政治的配慮というやつです。
【お】 お側に参りました。ジョ（伏せ字）イル父さん。
【あ】 馬鹿者！！ ちよつと地方色を出して怒ってみるならばコウリヤーン！！
【お】 父さん、そのネタわかんない。
【あ】 何がネタだ。ブタみたいにブクブクブクブク太りやがって。モンゴル相撲の力士じゃないんだ。食料援助でもらった米と牛、片っ端から平らげやがって。おまえはオバQか、え？ それともカネゴンか、あ？
【お】 どちらかといえばオバQ。
【あ】 違うだろう。
【お】 じゃあ、カネゴン。
【あ】 答えるな。今のは二択じゃなくて単なるイヤミだ。
【お】 できればオバQ7にカネゴン3で。
【あ】 人の話を聞け。
【お】 そこにみじん切りにしたパーマンを少々。
【あ】 だから聞け。
【お】 ササガキにした悟空を加えます。
【あ】 どこまでいく気だ。
【お】 ちよつと日本まで。
【あ】 そういう意味じゃない。
【お】 もうしません。
【あ】 デイズニールランドに行きたかったなんて嘘だろ。本当はあれだろう、スで始まって、イで終わる、アレをしに行ったんだろ。なあ、ジョ（伏せ字）ナム。
【お】 うん、スパゲティ食いに。
【あ】 ジョ（伏せ字）ナム！！
【お】 冗談だよ、父さん。スパイスパイ。
【あ】 そういう重い言葉を軽やかに言うのはやめる。
【お】 ごめん、父さん。（重厚に）スパイスパイ。
【あ】 音程の問題じゃないんだ。二回繰り返し返すな。
【お】 ごめん、父さん。（重厚に）スパイス。
【あ】 変なところで切るな。

【お】 父さん、雨漏り。

【あ】 ごまかすな。

【お】 スパイしに行つてまいりました。

【あ】 ……だったら民間機なんぞに乗つていなくても、いくらでも潜水艦出してやつたのに。

【お】 やだよ、潜水艦。スーツがしわになつちやうじゃん、それになんか臭いんだよね。

【あ】 臭いとはなんだ、臭いとは。

【お】 それに日本海側にしか上陸できないじゃん。デイズニーランドまで遠いんだよ。

【あ】 (怒り) コウリヤーン!! やつぱりデイズニーランドじゃないか!! あんなメリケン野郎のつくつた、富士額のネズ公とか、帽子かぶつたアヒル野郎のどこがいいんだ。

【お】 父さん、雨漏り。

【あ】 ごまかすな。なんでわざわざ偽造パスポートまで作つて浦安の千葉ネズミ王国なんかに。…アントニオ猪木とプリンセスエンコーならいくらでも呼んでやるつて言つてるだろう。

【お】 もう飽きたよ、あのマジックおばさん。最近じゃ手品よりも、あの人の年齢の方がよっぽど謎だね。

【あ】 だいたいなんでドミニカのパスポートなんかで入つたんだ。

【お】 だって、ビザいらぬしさ。

【ん】 (入国審査官) パスポートを。

【お】 ドミニカからきました、金田正男です。

【あ】 (怒り) コウリヤーン!! ドミニカついていやあ、ガルベスとマルチネスと広島カープ野球学校の国だぞ。そんなモンゴロイドまるだしの顔で何がドミニカ共和国だ。

【お】 父さん、雨漏り。

【あ】 ごまかすな。

【お】 嘘だつて、父さん。本当の目的はデイズニーランドじゃなくて。なんだ。

【お】 ユニバーサルスタジオジャパン。

【あ】 (往ビンタ) ジャピヤーン。

【お】 首が回る。

【あ】 ジャピヤーン。

【お】 、反対側に首が回る。

【お】 遊びにいったんじゃないつて。ジャジャー、本邦初公開、ユニバーサルスタジオジャパンの秘密。

【あ】 おおおお。でかしたぞ、ジョ（伏せ字）ナム。それでこそ我が息子。

【お】 Sがつくんだよ。

【あ】 A級どころかS級秘密か。

【お】 USJはね、本当は「ユニバーサル 스튜디오 ディオス・ジャパン」なんだよ？

【お】 だから、スタジオの後にSがつくんだよ。スタジオじゃなくて、ストゥウディオス・・・

【あ】 (往ビンタ) じゃぴゃーん！！

【お】 首が回る。

【あ】 (復ビンタ) じゃぴゃーん！！

【お】 、反対側に首が回る。

【あ】 うーうーうーう、うーうううー、億千万、億千万。父さんは悲しいぞ。うーううう。

【お】 父さん、そんなに悲しまないで。

【あ】 誰のせいだと思ってるんだ。

【お】 父さん、雨漏り。

【あ】 それは父さんの涙雨だ。

【お】 本当だ、心なしか量が増えてる。

【あ】 雨雨降れ降れ母さんが蛇の目でお迎え嬉しいなく、

【お】 雨雨降れ降れもつと降れく私のいい人つれてこい

雨漏り、激しくなる。

【い】 、大慌てで空き缶をかき集め、雨漏りの場所にあてがっていく。

雨だれを受ける缶の音が部屋中に広がっていく。

【い】 、雨漏りに向かって・・・

【い】 畜生、どうして止まらないんだ！！！！

音楽。

下手に【い】。

中央に【お】と【ん】。

上手に【あ】。

それを隔てるように、障子が壁を形作る。

それはおそらくは5号室の風景。

壁に耳を押しあて、5号室の様子をうかがう【い】。

【ん】 ねえ、お兄ちゃん。
【い】 え？

【あ】と【お】、入れ替わる。

【ん】 お昼に、新聞の人が来たんだけど・・・。
【あ】 新聞って。

【ん】 ヨミウリ。

【あ】 ナベツネんところか。ちゃんと言ってやったか？ 「お前んところの野球選手養うために、なんでウチが新聞とらなあかんのじゃー」って。「男は黙って千葉ロツテじゃ。マリーンズなんじゃ。とって欲しかったら新聞の名前、ヨミウリ新聞からお口の恋人新聞に変えてから出直してこい。週刊ヨミウリは週刊コアラのマーチ。球団名はロッテリアジャイアンツ。全戦日テレで試合終了まで生中継だ。ズームイン朝で、毎日イレコミ情報を流せ。それから、あのウサギのジャビットとかいうやつはシチューにしてチョンソンミンに食わせる。文句があるならジョニー黒木に言え」って。

【ん】 言ったよ、ガツンと。

【あ】 はんこはおしてないだろうね。

【ん】 うん。

【あ】 サインもしてないだろうね。

【ん】 うん。

【あ】 じゃあなんで洗剤がここにあるわけ？

【ん】 くれるって。

【あ】 新聞屋が？

【ん】 うん。

【あ】 ありえん。

【ん】 どうぞお使い下さいって。

【あ】 絶対にあるえん。

【ん】 それから。

【あ】 まだなんかあるの。

【ん】 もう一箱くれた。

【あ】 ますますありえん。

【ん】 サツカーのチケットもくれたよ。

【あ】 ベルデイ戦か。

【ん】 サガン鳥栖対ヴァンフォーレ甲府。

【あ】 なんだそのやる気のないチョイスは。

【ん】 あとね。

【あ】 まだあるのか。いったい何ヶ月契約させられたんだ。もう一回聞くけど、サインもしてないし、はんこも押してないんだよね。
【ん】 うん。

【あ】　こう、なんか変な紙渡されなかった？

【ん】　うん。あとは小麦粉くれた。

【あ】　なんだその不条理さは。

【ん】　契約なんていいですから、どうぞどうぞって。私、なんて言っているかわからなくて、そのまま貰っちゃって。

【あ】　確かに、新聞の勧誘がタダでモノをくれるなんてのは想定外だから書いてないけど。なんなんだ、そりゃ。セールスマンがモノを売らないってのは。セールスするからセールスマン。勧誘するから勧誘員だろ。新聞とらないのにモノくれるってのは、あり得ないだろ。慈善事業じゃないんだから。

【ん】　うん。変だと思う。

【あ】　怪しいな。そいつ、これまでに見たことがある顔だったか？

【ん】　顔は・・・帽子被ってたし、よく見えなかったけど。

【あ】　部屋んなかで帽子ねえ。

【ん】　うん。被りっぱなしだったよ。

【あ】　声を聞いたことは？

【ん】　うーん。あるようなないような。

【あ】　曖昧だな。

【ん】　でも、なんか聞いたことあるような気がする。

【お】　壁に耳あり障子に目あり。

障子が裏返し、【あ】が姿を現す。

【お】　・・・その声はこんな声じゃありませんでしたか、お嬢さん。

【お】、突然障子を開け放つ。

【い】　わっっ！！

【あ】　こいつか？

【ん】　うん。

【あ】　曖昧じゃない？

【ん】　間違いない。

【い】　ヒイラギ荘の空想も、どうもいよいよ終わりそう。春には椿、夏には榎(えのき)、秋には楸(ひさぎ)、冬には柀。木へんに冬が柀ならば、糸へんに冬でもう終わり。

おしまいだー。世界の終わりです！！　赤みのかかった月が昇るとき、それで最後だと、それで最後だと、僕は！！

【い】と【お】、連れだって逃走。

【いお】　節操ない戦争。幾星霜繰り返せば終わるのでしょうかこの迷走。

【あうえん】　また言葉遊びか。

【いお】 またじゃありません、まだです。遊んでません戦いです。もういいかい。マードーだよ。マードーというよりジェノサイド。これは一方的な虐殺だ。ラジオに殺されたラジオスターのように、空想に殺される僕は孤独なスター。空想という真つ暗な青空の孤独な星です。さあ、撃て。僕を取り囲む四重奏。倒れ伏すなら千日草、青い緑の草の上。葬送に棺はいらない。海ゆかば、水漬く屍。山ゆかば、草むす屍。身はたとえ 武蔵ののべに朽ちぬとも、とどめおかまし大和魂。(宇宙戦艦ヤマトのテーマ) ちゃーちゃーちゃーちゃーちゃーちゃーちゃーちゃーちゃー、ちゃーちゃーちゃーちゃーちゃーちゃー、ちゃーちゃーちゃーちゃー、ちゃーちゃーちゃー、ちゃーちゃー、さらば地球よ、旅立てください、いつまでたっても飛び立てません。前奏だけはいつもいつでも勇ましく、僕を鼓舞するけれど、石のつぶてにコブつくるのはほかでもない僕だ。繰り返される突撃の号令。一步も進めず、地球の引力の虜。飛べるわけないでしょう。僕は鳩じゃあないんだから!! クルッポー!!

【あ】 狂つとる。

【あうえん】 この放し飼いのキチガイが!!

【いお】 違ってるのはキじゃなくてマ。

【あうえん】 場違いなんだよ。

【いお】 一概にキチガイと呼ぶな。僕のは遺伝子の手違い。塩基配列の見間違いだ。

【い】と【お】、もう一同逃走。

しかし、4人に囲まれ・・・

【う】 あなた、見間違えましたね。5号室と6号室。

【え】 あなた、読み間違えましたね。古田と江古田。

【ん】 あなた、聞き違えましたね。お兄ちゃんとお姉ちゃん。

【あ】 あなた、はき違えましたね。自分の役割。

【う】 あなた、見間違えましたね。5号室と6号室。

【え】 あなた、見失いましたね。自分の役割。

【あ】 壁際の食器棚から飛び出してきたのは皿ですか、

【う】 空ですか。

【え】 カラなんじゃありませんか、その食器棚。

【ん】 シラをきるのもいいかげんにして

【あ】 ハラくくつたらどうですか。

【う】 ノラ猫なんですよ。

【え】 ハラをすかせたノラ猫がネズミを追いかけてダバタと

【あ】 天井走っただけなんですよ。

【う】 壁にあたっただけなんですよ。

【え】 鳴き声あげただけなんですよ。

【ん】 差しているのは・・・

【あ】 西日ですか？

【う】 傘でしょう。

【え】 魔が差したのかも。

【ん】 西日差すこの窓。

【あ】 何が見えますか。

【い】 鏡のようにキラキラと、

【え】 何か見えますか。

【お】 ただ青空を映すだけです。

【い】 あの子の姿は、どこにも。夕暮れに向かおうとする空は青から朱に染まり、西日差すその窓の向こう、まぶしさに目を細め、いくら目を凝らしてみても、窓の向こうには・・・何も見えません。

【あ】 だって、そこは空き部屋ですから。

【い】 ……

【あ】 降ってますか、雨。

【う】 あなたの部屋はいつでも雨だ。

【え】 そんなあり得ない風景。

【ん】 あなた、思いこみましたね。

【あ】 屋根にたまった雨水が、

【う】 屋根を抜け

【え】 梁を伝い

【ん】 落ちてくるだけなんでしょう。

どこからか雨の音。

【あ】、障子に手をかける。

【い】 やめろ、開けるな。

静かな間。

【い】 窓を開けるな!!

【あ】 今朝もいい天気です。縦の二十八。空の名前。「あ」で始まって「け」で終わる。その空は・・・朝焼けです。

【あ】、障子を開け放つ。

音楽。

朝焼けの強い光に照らされて、雨音が消え去る。
暗転。

静寂。

ただ、雨だれの音だけが静かに響く。
薄明かりに照らされる部屋。

【い】 壁際に耳をすましても、暗闇に目をこらしても。もうなにも見えない。もう何も聞こえない。

晴れた空に雨音を聞くことも、晴れた空に雪が舞うことも、そんな荒唐無稽な、あり得ない風景すら、もう、何も。

・・・空はどこまでも高く。どこまでも尽きせぬ空と水平線を夢見た。青空に白い雪が舞う、そんなありえない風景を夢見た。

それはあり得ないことなのか、それとも知らないだけなのか。だつたら。

誰も見たことのない、誰も知らない名前を付けよう。縦の二十八。空の名前。「か」で始まって「な」で終わる。その空は？

【お】 風花。

【い】の影からスツと立ち上がる【お】。

【お】 風花っていうんですよ。晴れた日に降る雪。風上の山から運ばれた雪が青空に舞う。それは荒唐無稽でもなんでもない。確かにあり得る風景です。

障子、ゆっくりと動き、【い】と【お】を取り囲む。

音楽。

障子、急激に【い】を捕らえようとする。

【い】 隙間に体をねじ込むように抵抗する。

【い】 ならば、せめて飛べ。僕の空想。重力に縛り付けられた僕を置き去りに、空へ陸へと自在に羽ばたき、いつしか僕を追い抜いて。

雨降れば、雨音のような憂鬱。雨があがれば、青空のような憂鬱。

海に名前をつけるよに、空に名前をつけたなら、あなたは還ってくるのでしょうか。果て無き空とその海の、狭間が確かに見えたなら、あなたは戻ってくるのでしょうか。その空の光を背に受け立ち尽くし、やがて振り返り、その空の彼方に駆け抜けたあなたの後姿。まぶしさに細めた目で精一杯見送りました。誰そ彼時と、彼は誰時の、空に違いがあるのなら、教えて下さい。この太陽は、昇り来るのか、沈み行くのか。やがて来るか、去っていくのか。

【お】、静かに振り返り【い】の姿を見据える。

朝焼けなのか、夕焼けなのか、陽の光だけが長い影を作る。

おそらくそれは朝焼けに似て。
その光に照らされ、走り去る【お】。
残された【い】の上に、静かに雪が舞う。

(幕)

脚本執筆に際し、以下の文献を参考にしました。

逆引き広辞苑

岩波書店

また、いくつかの楽曲より歌詞のサンプリングを行いました。

宇宙戦艦ヤマト	ささきいさおとミュージカルアカデミー
世界の終わり	ミッシェルガンエレファント
スーダラ節	植木等とクレイジーキャッツ
コーリングユー	ホリー・コール
二億四千万の瞳	郷ひろみ
冬の稲妻	アリス
日本船舶振興会の歌	笹川良一と巢鴨プリズンズ(うそ)
シテイコネクション	エマニエル坊や
雨の慕情	八代亜紀